

こ数年来の最も高額の買い物は、自転車だ。これは、仕事で何とも腹の虫が治まらぬ目に遭ったことが動機となつて購入した。自棄買である。本来なら消費者としての抑制が働いて、手頃なグレードのものを選ぶのだが、この時はそれでは痛みに釣り合わないと思われる、自分には十分すぎるそれを選んだものである。見ようによつては、痛みを別の痛みで紛らわせたようなものなのだが、それで我慢が利いたところはある。

高価とはいっても、自転車の世界、上を見ればきりがない。桁が一つ違う外国製の逸品を自慢する同僚がおり、職場に乗ってきた場合は、自転車小屋などつてのほかだと特別扱いを当然視していた。ぼくの場合、あくまで素人が手を出せる、自転車小屋で十分の範囲内なのだが、結果オーライとはこのことで、その快適さを愛するがあまり、車にはほとんど乗らなくなってしまった。

通勤や買い物で自転車に乗って風を受けていると、折に触れて思い出されるのがカブでの旅だ。スピードと感覚受容体の感度は反比例するのか、車では感じることでできない発見があつたことがふと蘇るのだ。たまたまいとか人の表情とか、そここから生じる風のようなもの。

そうなると夢想せずにはいられなくなるのが、自転車での遠出である。古い町並みだの点在する史跡だの、駐車場やら通行規制やらに煩わされることなく気楽に動け、しかも距離を稼げるといふ点で自転車に勝るものはない。そんなことをつらつらと考えていると、夢想が夢想を呼び、日本一周まで膨らんでいく。だが膨らむだけ膨らむと、しばませる気づきも出てくるもので、日本の道路事情、荷物、パンク、尻の皮、天気、気力体力の萎え、などなど、当然直面するであろう課題がブレーキをかけるのだ。カブで出かけていた四十年前は、未経験の特典で否定的な想像など寄せ付けなかつたのだが、さすがに還暦が過ぎるとそういうこともきちんと考えておかないといけない。

あれこれ検討した結果、今の自分にとつての最善は、車に自転車を積んでの移動だという結論に至る。どこか楽をしている恨みはあるが、無理も適当なところで収めないと楽しみでなくなってしまう。

さて、あとはタイミングなのだが、家族の不幸にコロナと猛暑でこれが最も難しかった。ずるずると時を送るうちに夢想も鮮度を失い、ぼんやりと遠くに霞むばかりになっていく。でも、きっかけは予期せぬところからやってくるもので、コロナの感染者が減少に転じ、暑さもやわらいだころ一通の手紙が届いた。



専業ババ奮闘記 (その2) 73

木幡智恵美

義母の異変 (5)

泌尿器科でもらった薬が無くなり、義母を二度目の受診に夫と二人で連れて行った。エコーの写真を示しながら、医者が説明をする。膀胱内にあるのは三センチくらいの塊で、本体とは細い糸のようなもので繋がっているらしい。これが何本も繋がっていたら問題だが、そうでもないようだと言われる。「内視鏡で取ってしまえばいいんですが、何せお歳なので」と医者が言う。義母が九十代半ば頃の二年余り、かかりつけ医から肺に白い影があるというので総合病院を紹介され、三箇月に一度検査を受けていた。その時も、「内視鏡で検査をすればいいのですが、お歳がお歳なので。今まで私がした最高齢が八十代でしたから」と言われた。まだあの時は九十歳代だったが、今は百歳だ。

出血はあつたり、なかつたり、痛みの訴えもないことを告げると、もう一週間分の抗生剤と利尿剤を出された。

夕方、娘が三人の子どもを連れてやつてきた。寛大はウルトラマンで遊び、実歩はトランプの神経衰弱。宗矢は座つたり、いざつたり。ハンカチを顔にかぶせ、ばあとやつて取ると、きやつきやと笑い、何度もせがむ。その様子を、車椅子に座つた義母が目を見て眺め、「しゅうちゃん」と何度も声を掛けていた。

その宗矢にも、異変が起きていると娘から知らされた。我が子にそういうことはなかったし、寛大や実歩にもなかつたので、どんなふうになるのか想像はできないが、話をきくと怖くなる。大泣きすると、息が止まり、顔が紫になるのだという。最後は息をするので取まるが、その後はぐつたりして、眠ってしまうことが多いのだと言う。泣き入りけいれんというのだそうで、二十人に一人くらい起き、大概は一歳くらいまでに取まるということだ。「明後日日赤を予約してるに。一歳までに治らんかったら、保育所が心配だね。治らんかったら、育児休暇延長せんといけんかなと思つたり…」

義母のことも心配だけど、まだ一歳にもならない宗矢のことが気がかりだ。近頃、抱っこすると、脚をばたつかせる。「ほら、喜んで」と娘。すっかり私にも慣れてきて、愛しさが増していく宗矢。何とか治つてくれるといいが。

30代フリーター やあ、ジイさん。ハト派のほずの岸田文雄がタカ派に近づいてくさまを先日の朝日新聞が報じていた(10月13日朝刊)。敵基地攻撃能力の保有にも、憲法9条改正にも前向きになった、と。

年金生活者 前者はもちろん、難題の9条改正も実行に移そうとするだろう。朝日新聞の最新の世論調査では、9条への自衛隊の明記に「賛成」が「反対」を上回り、4年前の衆院選公示後の調査とは逆になっている。これは追い風になるはずだ。

岸田は9条改正に慎重な伝統を持つハト派の派閥・宏池会の会長だ。朝日新聞の記事によると、彼は去年9月の総裁選出馬会見では敵基地攻撃能力の保有について「専守防衛、平和憲法との関係において、現実的な対応がでざるのかどうか、こういつた観点から、しっかりと議論を進めていく」と「やや慎重」な姿勢を示していた。それが、今回の総裁選の政策発表会見では「敵基地攻撃能力、これも有力な選

省などの壁に阻まれて苦戦するさまも朝日新聞は報じている(10月17日朝刊)。

年金 核兵器禁止条約は実効性がないと指摘されながら、その理想に向かつて先進国のトップを努力させる威力を備えていることを示している。

この条約は自らの掲げる理想を現実化する効力がないという点で、わが日本国憲法9条に似ている。9条は非戦・非武装の理想を掲げながら、現実には自衛隊という武装組織の存在を許している。核兵器禁止条約もまた非核の理想を現実化する手立ても力も持たない。

だが、9条が戦争と軍拡の歯止めになつてきたことも事実だ。もしこの条項がなかったら、日本はアメリカの求めに応じてベトナムやアフガニスタン、イラクでの戦争に自衛隊を送っていたに違いない。核兵器禁止条約も核軍拡の抑制と核軍縮への機運をつくり得る力を持っていることは、岸田の振る舞い方にもあらわれている。

択肢」と「前向き」な姿勢に転換した。

また改憲についても2017年6月の講演では「今は9条改正は考えていない」と「慎重」だったのに、総裁選中の会見では「総裁としての任期中に、4項目について憲法改正の実現を目指していきたい」と、やはり「前向き」に変わった。

30代 堂々たる変節ぶりだ。

年金 理由は、政権運営に安倍晋三の協力を得る必要があるとか、党内の結束をはかるには党是の改憲を掲げなければならぬとかといった目先のことだけにとどまらない。米中対立の深まりという世界的な流れを最も大きな理由としてあげなければならぬ。それは両大国を中心とした諸国家による武器を使わない冷たい戦争、抑止力を競い合うバーチャルな戦争として進行している。この戦争は破壊も流血ももたない代わりに、軍備の絶えざる更新を必要としており、敵基地攻撃能力も9条改憲もその一環として位置づ

そうした条約がつけられ、その前にはオバマが核大国の大統領として「核のない世界」を唱えるに至ったのは、核兵器の存在が各国の政府や国民にとつて重圧になりつつあることが背景にある。核兵器は使えない兵器になつて久しいのに、核抑止力を維持するため、つまり使えない兵器にし続ける

けられている。

このうち敵基地攻撃能力の保有をもし実行に移そうとすれば、それが国民に不安を与え、9条改憲に反対する世論を増やす可能性がある。2016年に集団的自衛権の限定的行使を容認する安保法制の制定を安倍政権が強行したとき、報道各社の世論調査で9条改憲への反対が増えたように。

抑止力を競う冷たい戦争、バーチャルな戦争は、かつての熱くリアルな戦争以上に軍事費を消尽し、慢性的な緊張状態をつくり出して、諸国民に経済的、心理的な負担を強い続けている。

ある程度の抑止力は必要だと思つている国民も、無制限にそれが拡大することには不安を覚えるはずだ。岸田もさすがに安倍晋三のようなタカ派になるつもりはないだろう。

30代 ハトであることへのこだわりも見せている。被爆地広島出身の首相として核兵器禁止条約を「重要な条約」と評価する岸田文雄が、条約に反対するアメリカやそれに追随する日本の外務

ために、その性能と分量の更新を絶えずしなければならぬ。それは経済的、心理的な負担と緊張を慢性的に強いる。だとしたら、それなしに核を使えないようにするほうが合理的だ。

30代 朝日新聞の記事によると、岸田はオバマの広島訪問を追い風に、核兵器禁止条約の交渉に加わる考えを示したが、政府内の多数意見に押されて実現しなかったという。中国が軍拡を進める中で日本が米国に核軍縮を求めたら「米国は怒り出すよ。岸田さんは鳩山由紀夫さんのようになる」と、長く核問題にかかわつてきた元政府高官は冷やかな言葉を口にしたことを記事は伝えている。

年金 鳩山は民主党政権の首相として沖縄の普天間基地の辺野古移設を阻止しようとして挫折し、民主党の下野につながらる要因のひとつをつくつた。もし岸田が「鳩山さんのように」なつたら、彼は自らの政権と引き替えに核軍縮を前進させる歯車を回した首相として歴史に名を残すかもしれない。

ニュース日記 804
中村 礼治

ハトがタカのまねをしているのか